

# 「芦名沢の観音様」を演じよう①

-資料をもとに時代背景を考察してみよう-

代表者 3A 関 真那加  
指導者 齊 藤 恭 子

～生徒のスケッチやメモから～

## はじめに

鹿角には、「佐多六とシロ」、「錦木塚物語」、「だんぶり長者物語」、「八郎太郎物語」、「猿の嫁になった娘」などたくさんの伝説や説話がある。

その中で、今回私たちが取り上げた「芦名沢の観音様」は十和田高校にもほど近い芦名神社にまつわる悲恋の物語である。

## I テーマ設定の理由

私たちは、数ある伝説の中から「芦名沢の観音様」を選び、時代背景を調べ、ただ研究したものを発表するのではなく、自分たちで脚本を作り表現しようと考えた。そこで、それぞれの分野での研究内容を演劇としてみなさんに伝えたいと考え、テーマを設定した。



☆ 芦名神社

## II 実施計画

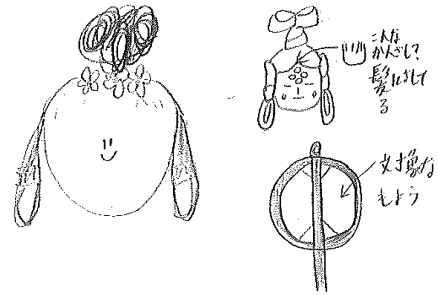
- (1) オリエンテーション、時代考証… 3 h
- (2) 脚本づくり講習会… 1 h
- (3) 配役、脚本読み合わせ… 3 h
- (4) 小道具づくり… 4 h
- (5) 演技練習… 4 h
- (6) 発表会

## III 調査・研究内容

### (1) 時代考証

DVDでNHK大河ドラマ『大仏開眼』や『炎立つ』を鑑賞することによって、当時の生活様式や衣装、道具などに焦点を当てながら、スケッチしたりメモを取ったりした。

### 《豪族の娘》



- ・色が鮮やか、華やかでキラキラした服装
- ・ピンクなどの明るい色遣い
- ・衣服の上に薄い羽織り
- ・とがった靴のつま先
- ・金や銀などの豪華な格好

### 《豪族》

- ・ポンチョみたいな服
- ・あぐら
- ・長く後ろで1つ結ぶ髪型
- ・とがった靴のつま先

### 《長者・長者の息子》



- ・黒いかぶり物
- ### 《庶民》

- ・くすんだ色、質素、地味な色
- ・白の着物みたいなもの
- ・頭に巻く白などの布

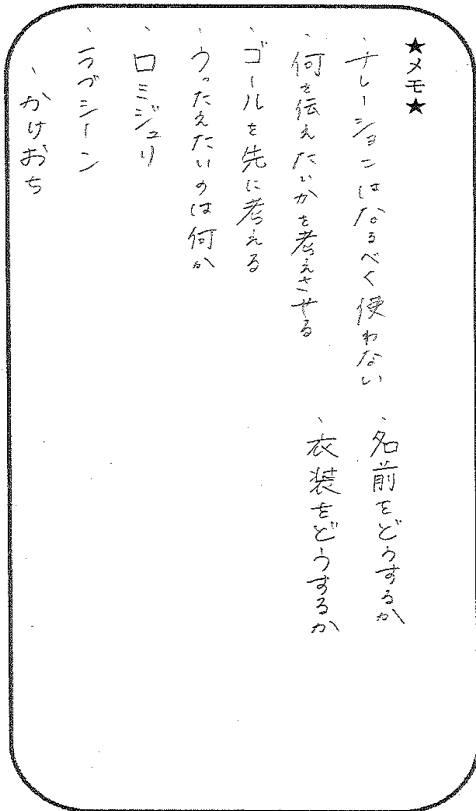
### 《その他》

- ・明かりはろうそく
- ・寒さ対策で火鉢
- ・座るところだけ畳



(2) 脚本づくり

主に講座 18 が担当した。6 月 20 日には、本校に「演劇を楽しむ会」の高木豊平先生をお招きし、脚本作りについてご助言いただいた。そこで、小道具班や時代背景班もイメージを膨らませるため参加した。



☆ 高木先生からのご助言いただいたメモ

【あらすじ】

奈良時代の天平宝字年間（757～764）、鹿角の砂沢（現在の山根地区）で豪族（市兵衛）の娘（芦名姫）と長者（孫七）の息子が恋に落ちる。

しかし、親同士仲が悪いため許しが得られず密かに逢瀬を遂げる…。

ある日、市兵衛が機転を利かせて2人を他国へ旅立たせるために、身代わりとして馬2頭を生き埋めにし、2人の墓を建てた。後に旅先で夫に先立たれた芦名姫がこの地に戻り、息子と馬2頭を供養した、という。

その場所が現在の芦名神社である。

(3) 配役

生徒の適性や性格を考慮し、担当教諭で話し合い決定した。

【配役】

豪族	:	市兵衛……	}	生徒名は省略しています
長者	:	孫七……		
芦名姫（豪族の娘）	:	……		
孫七の息子	:	孫八……		
村人	A	……		
村人	B	……		
家来	A	……		
家来	B	……		
商人	人	……		
生徒	A	……		
生徒	B	……		
生徒	C	……		
生徒	D	……		

※講座番号 18, 19 の生徒を含む

(4) 小道具

かつてあった演劇部の部室から使えるものを選定し、家庭科からお皿やお茶碗などお借りする予定である。その他のものは段ボールなどを用いながら制作中である。また、制作を進めるにつれて演劇に対する意識も高まっている。



☆ 孫七が奉納する絵馬

(5) 演技練習

全員で何度か読み合わせを行った。その際に、それぞれの配役ごとに必要な衣装や小道具を考え、準備している。

IV おわりに

この講座を通して、私たちは見知らぬ奈良時代の鹿角に思いを馳せ、全員で1つの演劇を作り上げていく過程を楽しむことができた。

また、「芦名沢の観音様」という十和田高校生にとって親しみのある伝説を取り上げ、芦名神社の由来や鹿角と馬の密接な関係を知ることによって、古きにしえの鹿角をより身近に感じられることができた、と考えている。